

はじめに

農林水産消費安全技術センター（FAMIC）は、農林水産省所管の独立行政法人であり、農薬取締法、肥料取締法、飼料安全法、JAS法等の法律に基づき、農業生産資材（農薬、肥料、飼料等）や食品を対象として科学的な検査・分析を行い、農業生産資材の安全の確保、食品等の品質・表示の適正化等に技術で貢献することを使命に掲げ、業務を行っています。

農薬は、登録制度等により厳しい規制が行われており、農林水産大臣の登録を受けなければ、製造、加工、輸入等を行うことができません。FAMIC農薬検査部は、農薬管理の要である農薬登録検査を主たる業務としています。また、農林水産省との密接な連携のもと、登録された農薬の市場における品質の確保のため農薬製造場への立入検査を実施するとともに、全国の農業生産現場における農薬の使用状況及び生産者から収集した農産物中の農薬の残留状況についての分析調査を行っています。

今般、平成28年度の農薬検査部における調査研究成果を収録した農薬調査研究報告第9号を発行しました。農薬検査部の調査研究は、登録検査業務の遂行に必要な技術力の向上や残留農薬の調査に必要な分析技術の向上を目的としています。また、農林水産省との密接な連携のもと、農薬登録の国際調和を進める上で必要な技術情報等の提供といった役割も担っています。こうした観点から、調査研究の対象については、実験を伴うもののみならず、文献等により収集した情報を分析・考察する調査や論考についても含めたものとしています。また、調査研究の成果は、関係学会等での発表を通じて公表に努めています。

この第9号では、実験を行いデータを得る手法を主にした調査研究の成果1論文と1技術レポート、文献等により収集した情報等を分析・考察した調査研究の成果1論文を掲載しています。また、学会誌等に掲載された調査研究の成果4論文を掲載元の許諾を得て転載しています。

本報告書が関係者の皆様の業務の参考になりますことを期待しています。また、農薬検査部では、今後も調査研究に積極的に取り組んでいくこととしています。調査研究の充実のためには、各方面の皆様からのご意見も不可欠ですので、ご指導のほどお願い申し上げます。

平成30年2月

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
理事長 木村 真人

目 次

ミツバチ群における内勤蜂と外勤蜂の識別手法の改良 市原直登, 大石桂輔, 石原 悟	1
拡張一世代繁殖毒性試験の試験法の概要および海外評価機関における要求状況の調査 勝山真多, 齊藤陽子, 大森正和	5
Development and validation of the SPEC model for simulating the fate and transport of pesticide applied to Japanese upland agricultural soil (Journal of Pesticide Science, 2016, 41(4), 152 ~ 162) Julien Boulange, Dang Quoc Thuyet, Piyanuch Jaikaew, Satoru Ishihara and Hirozumi Watanabe	1 2
Effect of Time-Dependent Sorption on the Dissipation of Water-Extractable Pesticides in Soils (Journal of Agricultural and Food Chemistry, 2016, 64, 4478 ~ 4486) Yutaka Motoki, Takashi Iwafune, Nobuyasu Seike, Keiya Inao, and Takashi Otani	2 3
室内培養によるカワヂシャ <i>Veronica undulata</i> の種子生産及び種子発芽率 (水草研究会誌, No. 102 (2015), 19~23) 加藤貴央, 石原 悟	3 2
温度変化が農薬の土壌残留性に及ぼす影響 (植調 Vol. 49, No. 11 (2016), 351~357) 元木 裕, 岩船 敬	3 7
平成28年度学会等での発表実績一覧	4 4
【技術レポート】 残留農薬分析業務における分析法の検討 (LC-MS/MSによる一斉試験法 (野菜・果実類) 対象農薬追加の妥当性検証) 佐々木秀幸, 守山智章, 山田篤司, 鈴木徹也, 青山吉一, 臼井裕一	4 6